

## 19) 番匠堂

御本尊：曲尺太子像

番匠堂（ばんしょうどう）

は、中心伽藍の東隣にある小さなお堂です。

番匠とは、聖徳太子の時代、朝鮮半島から招かれた名工たちのことで、大陸の高度な建築技術を、日本に伝えました。

つまり「番匠」とは簡単にいうと「大工さん」の事です。

聖徳太子は、その番匠たちを積極的に招き入れたということで、大工・建築技術の向上、工事の無事安全を願う人々の間で、大工技術の始祖としてお祀りされるようになったということです。

厨子の中には、曲尺（かねじゃく）を手に持った「曲尺太子像」が祀られており、毎月22日のみ公開されます。



## 20) 牛王尊（石神堂）

牛王尊（ごおうぞん）は、

593年（推古元年）の創建と伝わっています。

牛王尊とは、四天王寺建立の際、建築資材を運搬した牛が、伽藍が完成した途端に化けたと伝えられる「石神」で、こちらには、その言い伝えにちなみ、巨石が安置されています。

動物慰霊のお堂です。

後世、牛は草を食べることから、転じて「子供の顔にできる草（できもの・腫れ物）をとってくれる」という信仰が生まれ、絵馬を奉納すると病氣平癒のご利益があるとされています。

この御堂は聖徳太子四天王寺御創建の時、その材木をひきたる牛伏して石神となり永く衆生を利益せんとの誓願により建立されたと思われます。

牛、それも臥牛が祀られています。臥牛は、このお堂のすぐ近くにあった（現在は宝物館の前）古墳の石棺の長持型石棺の蓋をモチーフにしていることは間違いのないと思われます。

